

交通政策審議会航空分科会技術・安全部会

第1回技術規制検討小委員会 議事概要

日時：平成28年9月5日（月）14：00～16：00

場所：中央合同庁舎3号館 4階 特別会議室

議事概要：

<議事（1）「本小委員会について」に対する主な質疑応答>

○特になし

<議事（2）「航空行政に関する昨今の動き及び技術規制の検討の進め方について」に対する主な質疑応答>

○前回（平成23年～24年）実施した「安全に関する技術規制のあり方検討会」から航空を取り巻く状況が大きく変化していると感じている。今回小委員会が技術・安全部会の下に設置されるが、技術安全分野に関わらず要望を広く聞く場所はあるのか。

→交通政策審議会航空分科会に基本政策部会を設置している。

○重点項目のヒアリングは、十分な時間を設けてもらいたい。

○1次募集では、いくつくらいの企業・団体に聞き取りを行ったのか。また、1次募集と2次募集では同じ企業・団体に聞き取りを行ったのか。

→約500の企業・団体から聞き取りを行った。また1次募集と2次募集の聞き取り先は同じである。

○1次募集と2次募集の送付先は同じ部門なのか。

→2次募集では経営等全般の視点から幅広く追加の意見募集を行うために、部門を変更して企画経営部門へ送付したものもある。

○空港関係者から意見提出はあったのか。

→意見募集は行ったが、提出はなかった。

＜議事（3）「利用者利便の向上等に資する規制見直しの分類案について」に対する主な質疑応答＞

○特になし

＜議事（4）「要望に対する対応の方向性について」に対する主な質疑応答＞

・操縦士学科試験の受験機会について

○操縦士養成課程において、米国で取得した自家用操縦士のライセンスを日本のライセンスへ書き換えるケースが年間6回発生しているというのは、要望を提出した企業だけなのか。また、対応の方向性として学科試験回数を増やすとあるが、国内法規の試験だけを増やすのか、それとも全科目の試験を増やすのか。

→当局のリソースや他の会社からの要望も踏まえて検討させていただく。

○受験機会の増加は、昨今の操縦士不足解消に重要であると考えている。米国では学科試験をコンピュータ化しているが、日本でも同様の取組ができないか検討していただきたい。

○全国各地の受験者に対して間口を広げるためにも、学科試験のコンピュータ化を実現していただきたい。

・特定操縦技能審査制度の手続きの簡素化

○技能証明書の審査結果欄の行数を増やすだけでなく、そもそもペーパーレス化できないか検討していただきたい。

・業務規程の認可対象の見直し

○手続きが煩雑なので、前向きに検討していることに感謝する。

・認定業務の実施に係るエンジン補機のベンチテスト

○一般論として対応の方向性が示されているが、要望の背景や趣旨を確認すべきではないか。

＜議事（5）「質疑応答」に対する主な質疑応答＞

○新千歳空港でのすり抜け事案もあったので、空港保安についても今後検討していただきたい。